

心に残る文化財子ども塾 大田市立久手小学校 6年生



1 時間目は、学校周辺の遺跡の学習です。大田市役所の野島さんが紹介したのは、「諸友大師山横穴墓」。古墳時代と同時代の墓です。横穴から見つかった土器と、現代人が使っている（野島家の？）お茶碗を見比べたり、クイズに答えながら、子供たちは食器やその使い方の変遷に思いをめぐらせていました。

埋蔵文化財センター職員は、山陰自動車道の工事予定地で調査した遺跡を紹介しました。校区内の遺跡とあって、児童たちは「うちの近くだ」「行ったことあるよ」等、競うように場所当て

てをしていました。

大田市の野島さんは「諸友大師山横穴墓」の遺物を、センター職員は高速道路用地の遺跡出土遺物を展示し、使い方などを解説しました。小学校の周辺では古墳時代に入って遺跡が急増します。この日展示した遺物も、古墳時代や奈良時代の遺物が多く並びましたが、それと並んで「中尾H遺跡」で見つかった縄文時代の石器や土器も存在感を示していました。なかでも「石皿」は、力自慢の男子たちが持ち上げては「重い」と叫び、「それ、持ち上げて使う物じ



ゃないだろ」と友達からつつまれたりしていました。

2 時間目からは、玉作体験をおこないました。

センター職員が、現代の「パワーストーン」等と対比させながら古代の人にとっての「玉」の意味を説きました。事前学習が終わるとさっそく製作開始。金属製のヤスリなど、便利な現代的工具も駆使しますが、作業は難航します。断面形を丸く整える作業になかなか入れません。先行した児童が磨きあがってツヤの出た「勾玉」をみんなに見せて回り、「いいなあ！」とうらやましがられて

ていました。

久手小学校のみなさん、教科書に載っているような「ダイセン古墳」だけでなく、小学校周辺や自分の家のまわりにも豊かな歴史が残っていること、わかってもらえたかな？

